

実習って何だろう

雇用を前提としない

- ハローワークの実習
- 特別支援学校の生徒さん
 - 要望に応じて受け入れる
 - 就職が難しい生徒さん
- 就労意欲を高めるものいい
 - その時は採らない
 - それだけではない方法があるとい
- お金を払う

雇用する場合もある

- 障害者職業センター
 - 職務試行
 - 職業評価
 - 1週間から2週間
 - 企業の方による評価

リハビリテーション

- 精神障がい者社会適応訓練事業
 - 昔は使った
 - 今は使っている人はいない？

雇用制度

- 特に精神、知的の障がい
- 継続して就労できる仕組み

企業のCSR

- 学校や施設では学べない
- 学びの到達度を確認
- 企業見学
 - 興味喚起
 - OB訪問など刺激になる

職場を知る機会

- 見学会の実施
 - 就労への大切なプロセス
 - 刺激になる
 - 機会を増やしてほしい

障がい者を知る機会

ハローワークが実習を作り出す

- 東京都もやっている
- 実習の面接会

ミスマッチをなくしたい

- しかし全員に必要なのか？

大学、専門学校生での経験不足

- 自らバイトもしてきていない
- 職業体験を提供する場

実習の良かったこと

- 職場を知る
- 体力面の自信
- お互いに成長する
- 会議室の清掃から植物の世話
- 実習からアルバイト雇用、そして雇用へ
- 6年間続いている
- その中では休職したこともあった

販売会で販売すること

- 希望者多い

知的障がいの方

- 事務系の仕事がない
- 身体労働系が多い
- 実習の扉を開いてほしい

期間がある実習は振り返りができる

職種の幅が広がる

就労支援の職員に2年間くらい来てもらう

- 理解が深まる
- 木工でいいの？
- 企業が求めている人を理解してほしい
- 企業が求めている人がわかる
- 支えられる側から支える側になってほしい
- 特例の連絡会へ

受け入れる側と送り出す側のギャップ

- 支援学校と職業訓練学校のみ
- 増やせない
- 短期間
- 一定以上は*
- 厚生労働省の合理的な範囲
- ハローワークをかませない実習
- 同じ作業でも企業内でやってもらうと違う
- お金より使える制度を
- 終わりは解雇になる
- 実習に似ている
- トライアル雇用

企業にとっても大切

- 雇用予約に抵触する？
- 企業にとってのリスク
- 短期間
- 一定以上は*
- 厚生労働省の合理的な範囲
- ハローワークをかませない実習
- 同じ作業でも企業内でやってもらうと違う
- お金より使える制度を
- 終わりは解雇になる
- 実習に似ている
- トライアル雇用

就労移行支援

- 2~5日以上
- 二年生からインターンシップ
- 三年生
- 盲学校という事で断られる
- 盲学校
- 卒後の定着においても実習は大事

特別支援学校は実習と就労は切り離せない

- 意欲のある人は結び付けられる
- 環境の変化によって困難なケースもある
- 企業見学
- 特性・適性を知る
- 大塚は二週間
- 移動などを含む体験
- 特性・適性を知る
- 大塚は二週間
- 大塚の三年生は三週間
- そのための実習でもある
- 卒業後は自分から動く必要がある
- 体制が整えられている
- チャレンジ雇用など
- うまくいかない生徒さん
- 三年間で意欲喚起

しごと財団の実習

- 面接体験も貴重
- なかなか受からない
- 就職体験実習
- ニーズが違った
- 面接の場で条件が提示される
- なかなか受からない
- 就労につながっても条件がミスマッチ等
- 名目は体験、実習
- ハードルが上がる
- ていねいに対応してくれる

就労支援センターの実習

- 採否だけではない
- 適性の把握
- 体験

B型事業所利用者にとって

- 時間も短い
- いい点とマイナス点
- いろいろな人と接する機会
- 達成感
- やり遂げるための工夫
- 外での振る舞い
- 知っている人に会う可能性
- 支援者のネームタグ
- 振り返りも大事
- いろいろな体験ができる
- 今まで知らなかった仕事
- 希望者は就職ができる
- 就職より継続支援で安定した生活を
- 保護者の考えでもある
- 区役所のシュレッダー
- お金がいい
- いい経験
- 外での経験
- 好みがあがる
- 特に男性が好む
- 女性からは好まれない
- 利用者の高齢化によるコースの変化
- 若い利用者も生活介護に近い方が多い